浮遊物が猿投橋付近まで移動して集積することがある

（仮説） 大潮の満潮時間帯
＋庄内川からの導水停止時

大潮と庄内川からの導水停止が重なると、浮遊物が満潮時間帯に水塊とともに猿投橋付近まで移動して、集積することがある

（参考）第28回調査報告　～コラム～ p.32

第28回調査報告では、みなさんが撮影した北清水橋付近の写真をもとに、北清水橋付近で移動・集積するごみの謎を整理しました。

今回報告された写真（7月26日5時30分頃_大潮の上げ潮～満潮時間帯_庄内川からの導水停止時）では、猿投橋付近まで白濁した水が潮目状態で遡上し、浮遊物が移動・集積する様子が報告されました。

一方、同日（26日）の下げ潮～干潮時間帯（12時頃_庄内川からの導水再開）、翌日（27日）の上げ潮～満潮時間帯（5時30分頃_庄内川からの導水あり）には、白濁した水の潮目も、浮遊物が移動・集積する様子も報告されませんでした。

これらの報告をもとに、事務局では『大潮と庄内川からの導水停止が重なると、浮遊物が満潮時間帯に、水塊とともに猿投橋付近まで移動して、集積することがある』と仮説をたててみました。

今後、さらに事実関係の確認が必要です。

庄内川からの導水、浅層地下水を含めた上流からの導水の重要性があらためて確認されそうです。

（5）北清水橋付近で移動・集積するごみの謎

（参照：6.2.10. 北清水橋付近で集積・移動するごみの謎_p.93～100）

北清水橋付近では、浮遊物が集積する様子が見られ、その集積した浮遊物は、上流向き・下流向きに移動している様子が報告されています。その特徴をこれまでに調査隊が撮影した写真（2015年_平成27年から今まで）をもとに整理しました。その結果、川幅が広がる場所があると「流速が低下し、浮遊物が滞留しやすくなること」、さらに「感潮区間では潮汐で浮遊物が移動・集積を繰り返すこと」が分かりました。

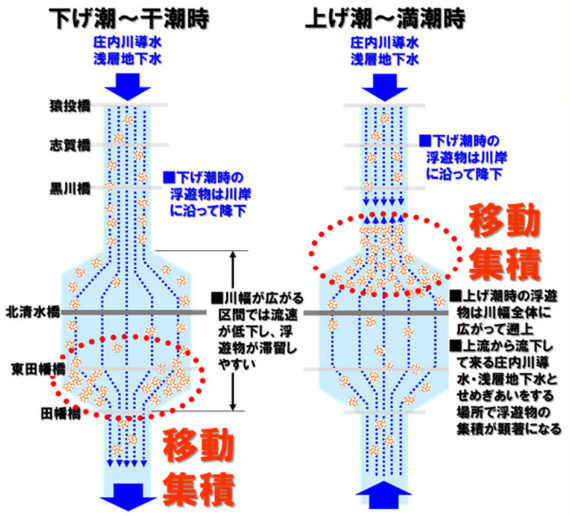
（浮遊物の移動・集積・滞留の新たな視点）

■川幅が広がる場所があると

・流速が低下し、浮遊物が滞留しやすくなる

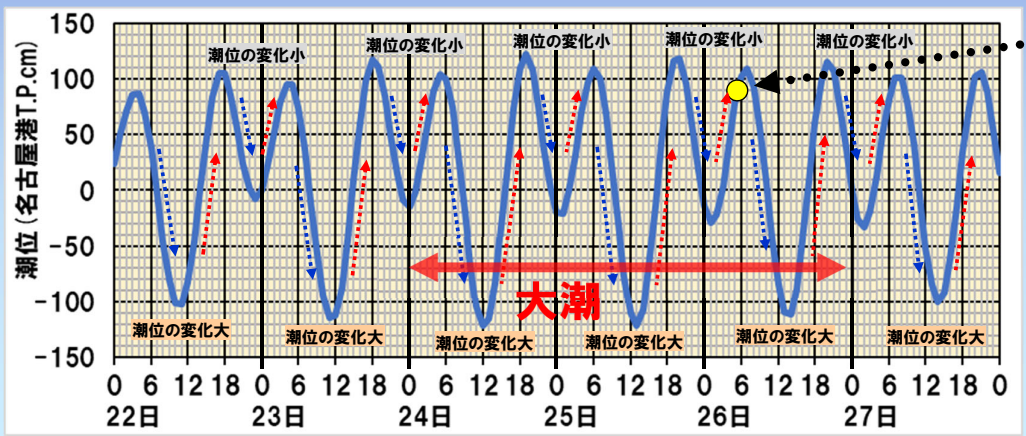
・潮汐で浮遊物が移動・集積を繰り返す

川幅が広がった部分は移動・集積・滞留した浮遊物が川底に沈降・堆積しやすい環境



堀川・猿投橋付近で浮遊物が集積

堀川は河口から約13.6kmの猿投橋地点まで名古屋港の潮位の影響を受けています。
7月26日（午前5時30分頃、12時頃）の猿投橋の落差付近の様子です。

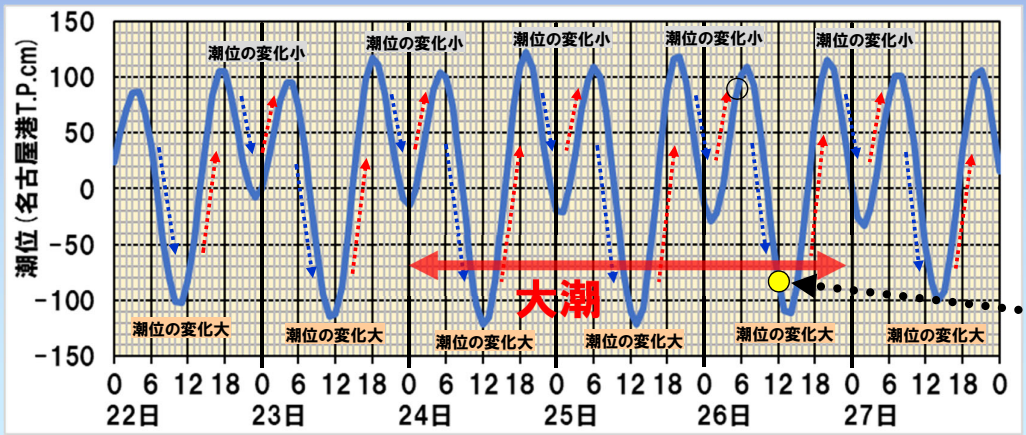


26日
5時30分頃
5時　78cm
6時102cm

春から夏の潮位（名古屋港）の変化は、夜間よりも昼間が大きくなります。一方、秋から冬は、夜間よりも昼間が小さくなります。

名古屋港潮位
資料：気象庁HP
潮位表

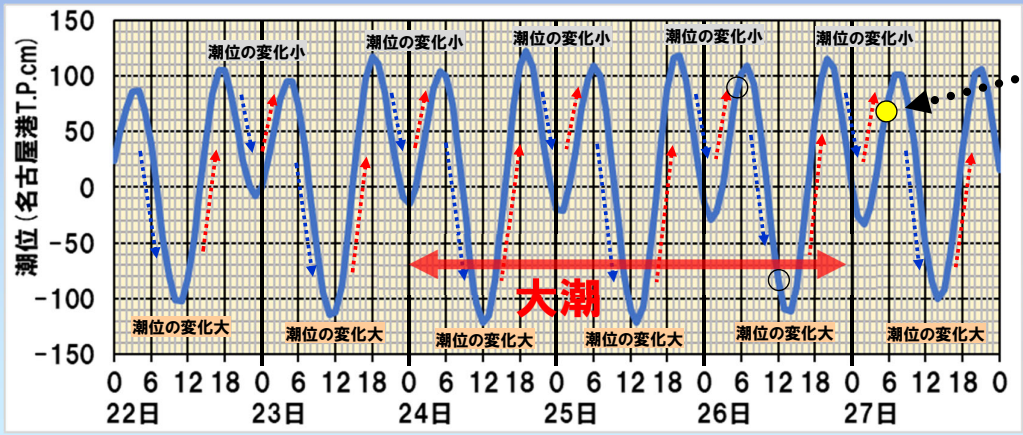
浮遊物の集積は見られない　大潮_下げ潮～干潮時間帯＋庄内川からの導水あり



名古屋港潮位
資料：気象庁HP
潮位表

26日
12時頃
-84cm

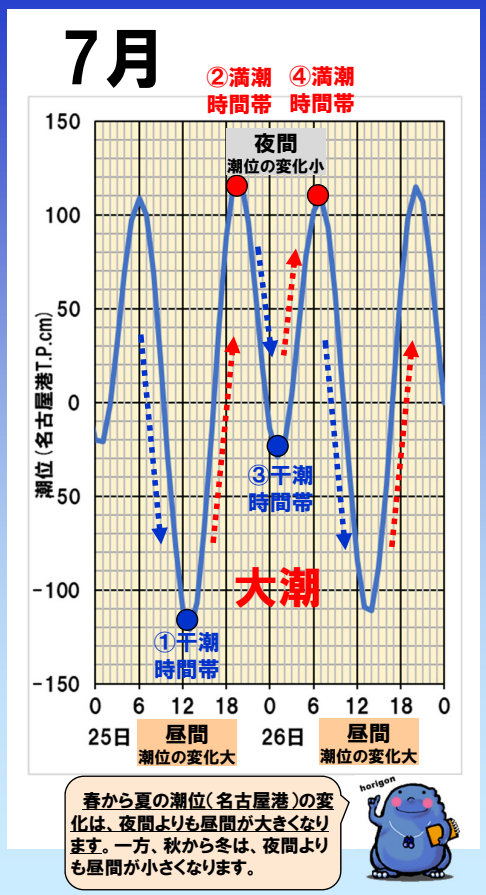
浮遊物の集積は見られない　中潮_上げ潮～満潮時間帯＋庄内川からの導水あり

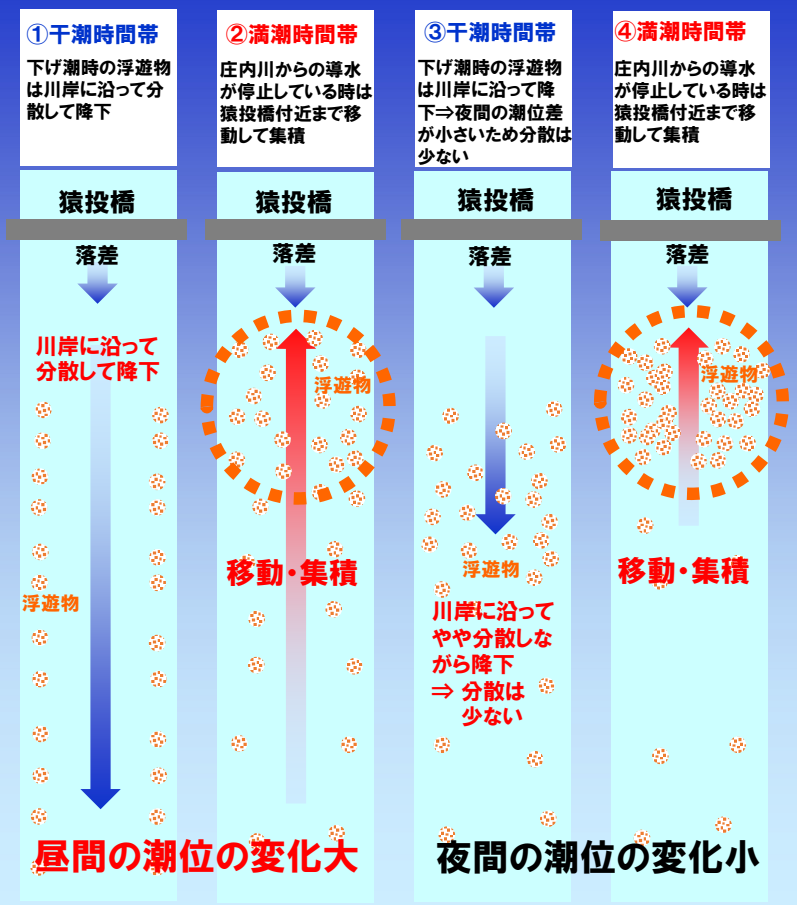
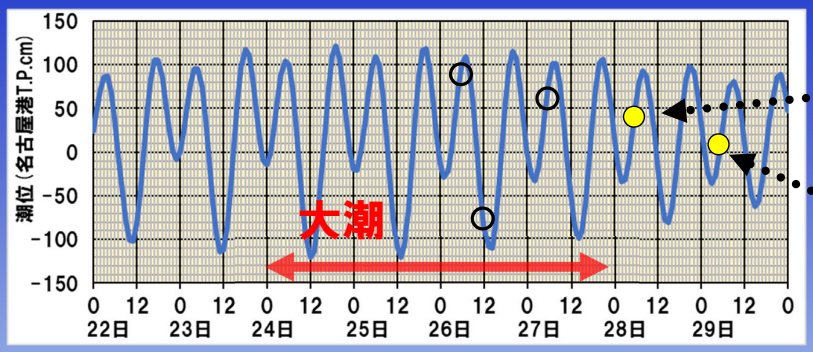


27日
5時30分頃
5時　50cm
6時　82cm

名古屋港潮位
資料：気象庁HP
潮位表

（参考）大潮_満潮時間帯＋庄内川からの導水停止時
⇒猿投橋まで浮遊物が移動・集積





（参考）7月28日、29日の様子　庄内川からの導水あり
⇒浮遊物の集積は見られない